

木漏れ陽

7月

平成30年7月12日 第51号
発行佐賀市教育研究所
発行責任者 所長 松島正和

シアワセのカタチ

1学期も残りあと少し、ラストスパートにはいりました。一学期の学習のまとめと成績付け、通知表の作成など特に忙しい時期に入ります。先生方くれぐれもお体ご自愛ください。中でも今年度初めて社会人として学校で働き始めた先生方、働く「喜び」と「不安」とのバランスは今どちらに傾いているのでしょうか。悩みを抱え込まず、身近な同僚や管理職の先生方へ相談をするようにしてください。必ず力になってもらえます。全員で乗り切っていきましょう。

思い返せば、私も働き始めて30年以上たちます。時代の変化により、人が現役として働く年数がどんどん伸びる方向に向かっています。一生を考えたときに人生の大半を働いて過ごすわけですから、そこに幸せを感じるかどうかは生活の質に直結する問題とも言えるでしょう。幸せの形は人それぞれであると思いますが、働くことによって得られるものが賃金だけでないことは皆さんよくご承知のことと思います。

実は、ここでみなさんにご紹介したい会社があるのです。日本理化学工業株式会社というのですが、私たち学校関係者にはなじみの深いチョークを製造販売している会社です。主力製品であるダストレスチョークは、これまで廃棄されてきたホタテの貝殻を再処理し、チョークの主原料である炭酸カルシウムを取り出すことで環境にも配慮したものとなっています。おそらく皆さんの学校にもこの会社のチョークがあるのではないのでしょうか。実はこの会社で注目したいのは、「治具」(じぐ)の工夫をはじめとする徹底的な作業効率の追求にあります。治具とは耳慣れない言葉ですが、工業製品などを大量生産する際、工作物を位置的に安定させ、削ったり加工したりするための制御や案内を行う装置のことを言うそうです。こういうと大げさに聞こえますが、この会社のHPで紹介されている治具はどれもちょっとした工夫でできるもので、誰がやっても簡単に精度の高いものができるように工夫されています。目盛りを読まなくても素材を混ぜる割合が簡単にわかるように、赤い容器の素材は赤いおもりと釣り合う量だけ、青い容器の素材は青いおもりと釣り合う量だけ混ぜるように工夫したり、機械を動かす時間を砂時計で測ったり、チョークの太さが適合するかを測るために、太さが二段になった溝にチョークを入れて途中で止まればOKという具合です。まさにUDの考え方だと思うのですが、それをもう50年以上前から実践されていることに驚きます。そしてその工夫はハード面だけでなく、絵や図を用いて一目でわかる作業工程表や、昼休み後作業に入る前には円陣を組み掛け声をかける、などソフト面にも及びます。

実はそれらの工夫はある意味必要に迫られて編み出されたものなのです。その秘密はこの会社の従業員の構成にあります。日本理化学工業は川崎市に本社を持ち、全社員85名の決して大きいとは言えない会社です。ところがそのうちの63名、全社員の70%を超える人員が重度の知的障がいのある方々で構成されているのです。多くの企業が障がい者の法定雇用率も満たせないなか、驚くことにこの会社は国内でのチョーク販売におけるシェアをぐんぐん伸ばし30%を超えるトップメーカーになっています。

そもそもこの会社が障がい者を雇用するきっかけとなったのが2名の特別支援学校からの実習生を受け入れたことでした。手助けを受けながらも一生懸命働く彼女らの姿を見て、不思議に思った当時の社長の大山泰弘氏が、施設に行けば働かずに暮らせるのになぜ彼女たちは働きにくるのだらうと、ある禅寺の導師に尋ねたそうです。するとその導師は「人間の究極の幸せは4つあります。人に愛されること、人にほめられること、人の役にたつこと、人から必要とされること、の4つです。働くことによって愛以外の3つは手に入ります。福祉施設で大事に面倒をみてもらうことが幸せではなく、働いて役に立つことが人を幸せにするのです。」と言われたそうです。以来大山氏は働くことこそが人を幸せにするのだとの信念を持ち、様々な困難を乗り越え現在の地位を築きました。一昨年には「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞、審査委員会特別賞を受賞しています。この会社の社屋の庭に「働く幸せの像」が設置されており、その像には大山氏が禅寺の導師から教えられたという先の言葉が刻まれています。先ほど幸せの形はそれぞれ、と言いましたが、ここには確かに一つのカタチがあります。

働き方改革が言われる中、学校で働くことは皆さんを幸せにしているのでしょうか。学校でよく使う「出番、役割、承認」は先の導師の言葉とも重なります。働くことにより幸せを具現化する、そんな学校をつくるようともにがんばっていきましょう。

(学校教育課長 松島 正和)



平成30年度教育研究所がスタートしました。

平成30年度佐賀市教育研究所の顧問及び所員の先生方が決まり、5月24日(木)に第1回合同教育研究所委員会が開催されました。いよいよ平成30年度の研究が始まります。佐賀市教育研究所は、昭和28年に立ち上げられました。佐賀市の教育の向上を目指して、研究したことを広めるべく脈々と続いています。今年度のメンバーは、各部お二人の顧問の先生と課題研究部、児童生徒理解部各10人の所員の先生です。今後それぞれの部に分かれて研究に取り組み、平成31年1月24日(予定)の佐賀市教育研究発表会で研究の成果を発表する予定です。課題研究部は、「主権者教育」と佐賀市が推進している「市民性を育む教育」にスポットを当てて研究に取り組みます。「社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせる」ための授業実践に取り組みしていきます。児童生徒理解部は「児童の自己有用感を育む集団づくり」について、小中の連続性を図る学習集団づくり授業づくりを通して研究に取り組みます。なお、昨年度の取り組みについては、佐賀市のホームページと**71 全校共有共用フォルダ→小中学校共通→03 研究会**に掲載していますので、ぜひご覧ください。

課題研究部				児童生徒理解部			
	所属校	職名	氏名		所属校	職名	氏名
顧問	富士小学校	校長	小川徳晃	顧問	南川副小学校	校長	堤和隆
〃	東与賀中学校	校長	川内野彰夫	〃	諸富中学校	校長	南里美紀江
所員	新栄小学校	教諭	中村希望	所員	日新小学校	教諭	中島正敏
〃	鍋島小学校	教諭	橋爪健太	〃	西与賀小学校	教諭	米田純
〃	川上小学校	教諭	江口将史	〃	神野小学校	教諭	山口香緒里
〃	春日北小学校	教諭	田川雄基	〃	春日小学校	教諭	武藤佳祐
〃	開成小学校	教諭	陣内俊	〃	東与賀小学校	教諭	寺沢瑛子
〃	成章中学校	教諭	田原典尚	〃	成章中学校	教諭	夏井慶彦
〃	城南中学校	教諭	山口真美	〃	金泉中学校	教諭	竹下沙弥香
〃	城東中学校	教諭	浪瀬大樹	〃	大和中学校	教諭	下西敬
〃	城西中学校	教諭	横尾亮秀	〃	鍋島中学校	教諭	北原佳奈
〃	思斉中学校	教諭	吉末恭享	〃	思斉中学校	教諭	山崎奈緒美

■ 「新学習指導要領の全面実施に向けて」

1学期の学校訪問では、各小中学校には大変お忙しい中、対応をしていただきましてありがとうございます。

学校訪問と同時に、教務主任の先生に対して「教育課程ヒアリング」を行いました。多くの学校で教育課程に、「主体的・対話的で深い学び」、「資質・能力」、「カリキュラムマネジメント」等の文字が見られ、新学習指導要領の全面実施（2020年小学校、2021年中学校）に向けての取組が進められていることがうかがえました。また、「特別の教科道徳」に関しては、今年度から小学校ですでに実施されており、様々な取組が行われていました。

しかし、「主体的・対話的で深い学び」というキーワードがどのようなものか、また、どのように取り組んでいかなければならないのか等、各学校でまだまだ模索状態のようです。特に、「深い学び」については、これからという学校が多いようです。「深い学び」の鍵として、様々な事象を捉える各教科等ならではの「見方・考え方」を働かせることが重要であるとされています。

また、道徳では、「考え、議論する道徳」がキーワードとなっており、「自分ならどうするかという観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える」という授業づくりが求められています。

新学習指導要領を開くと、このように様々なキーワードが出てきますが、全体を理解するにはその一つ一つを順に読み解いていく必要があります。

新学習指導要領の全面実施に向けて、研修等が進められていると思いますが、まずは、先生方それぞれで、新学習指導要領や解説に一度目を通していただき、自分なりの解釈を持っていたければと思います。その後、他の書籍にあたられることで理解が深まるのではないのでしょうか。

(義務教育指導係長 淵上 純)